

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果は、国語・算数・理科すべてで平均を大きく下回った。内容で見ると、国語では「情報の扱い方」と「読むこと」、算数では「数と計算」と「測定」、理科では「生命・地球」の正答率が特に低かった。また、観点別に見ると、教科によって多少の差はあるものの、知識・技能、思考・判断・表現ともに、低い現状が捉えられる。

○「全国学力・学習状況調査」の児童質問調査では、自己肯定感や家庭学習の習慣に大きな課題が捉えられる。また、学び方については、学んだことを生かしながら自分の考えをまとめることや、友達との話し合いを通して考えを深めることに課題が見られる。

○「RST」の結果から、文の基本構造を把握することや代名詞が指す内容を認識すること、2つの文の意味が同一かを判定することなど、基本的な理解力に課題が見られた。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○獲得した知識・技能を活用しながら問題を解決し、基礎・基本の定着を図る必要がある。

○自ら考え、主体的・協働的に学習に取り組む。

○INPUT, THINK, OUTPUTの流れに沿って、文章や資料から情報を確かに読み取り、それらを活用して自分の考えをまとめ表現する力の育成が必要である。

○自分の考えを伝え合い、考えを広げ深める活動の充実を図る。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

★子ども主体のみんなで取り組む問題解決的な学習の実現と確かな学力の定着

- ①「つかむ→見通しをもつ→調べ考える→まとめる（→いかす）」、みんなで解決する問題解決的な学習。
 - ・「板橋区授業スタンダード」を基盤とした単元を通した問題解決・単元や内容のまとまりを意識した問題解決的な学習
 - ・関心や問題意識を高める導入の工夫（教材開発、学習活動、地域・関係諸機関との連携）・見通しと振り返りの重視
 - ・子どもが選択して学習に取り組む場面の意図的な設定（課題、時間、方法、資料、活動等）
 - ・各教科・領域等の見方・考え方を働かせて考え、表現することのできる教材や学習活動、指導・支援の工夫
 - ・言葉で表現し伝え合い深め合う活動の充実（対話的・協働的な学び）・学びを生活や社会とつなぐ・自己調整場面の設定
 - ・授業規律（聞き方・話し方も含む）の徹底
- ②校内研究の推進・授業実践を核とした実践的な研究・学びを日々の授業に生かす・相互授業参観の促進
- ③GIGAスクールの推進
 - ・一人一台端末の活用推進…学年段階に応じた計画的な指導・活用、効果的かつ多様な活用（調べる、記録、まとめる、伝え合う、発信、聞き取り、交流等）
- ④カリキュラム・マネジメントや探究的な学びの充実・各教科等の学びを相互に発揮したり生かしたりできるようにする
- ⑤小中一貫教育の推進…小中9年間の系統性・関連性を意識した指導

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○1時間の授業の中で「INPUT, THINK, OUTPUT」を設定し、問題解決的な学習過程に沿って、読み取り、考え、表現する活動をセットにすることで学びの質の向上を図る。 ○児童が学習課題や資料、方法などを自分で選んで決定する場面を設け、主体的な学びを実現する。	○国語科の学習を核にして文章を正しく読み取る力を育むとともに、学んだことを各教科等で意図的に活用する場面をつくり、その定着や伸長を図る。各教科において調べたことや自分の考え、学習内容を説明したり、まとめたりする活動を重視する。あわせて、問題解決的な学習過程の問題解決時間の確保、表現及び対話的な活動の充実を図る。	○学校や地域の環境を活用しながら、子どもの疑問・関心・問題意識から課題を立て、情報を集めて整理・分析し、まとめて表現したり実践したりする探究的な学習を行い、「主体的に追求し、自分たちでできることを考え、実践できる力」を育成する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアのめざす子ども像に基づき、授業規律、学ぶ意欲、基礎・基本、思いやり、規範意識の分科会ごとに焦点課題を年度当初に決定し、エリア内で共有するとともに、日々の授業において実践をする。 ○学びのエリアの教員が義務教育9年間という系統性を見据えた研修を実施する。9年間の学習の「到達点」や、高校入試において求められる資質・能力について研修会で協議し、理解を深める。 ○小中それぞれの授業公開において、「読み解く力」の視点と9年間の系統性を学習指導案に明記し、協議会で議論したことを日々の授業に生かす。	○生活科や総合的な学習の時間を核にして各教科・領域等の関連を図りながら、各教科において身に付けた知識や技能、思考力・判断力・表現力、見方・考え方を様々な場面で発揮できるようにする。 ○総合的な学習の時間においては、「環境」及び「SDGs」と関連のある単元を3年生以上年間1回ずつ設定し、板橋区カリキュラムの推進を図る。 ○校内の豊かな自然環境や地域の素材や人材、施設等を積極的に活用し、自然や郷土についての理解と愛情を深め、学びを実生活や実社会の改善や向上に生かして、子ども主体の問題解決的な学習を展開できるようにする。	○板橋区「情報活用能力の指標」に基づき、学年段階に応じた活用、指導を推進する。 ○主体的な学びの充実に向けた活用 ・自己の課題やペースに応じた追究、思考、表現活動の充実（記録する、調べる、考える、まとめる・表現する、ドリル学習等） ・学びのプロセスの蓄積と振り返り（記録する、振り返る、修正・調整する） ○協働的な学びの充実に向けた活用 ・自己の学びや考えを伝え合う（プレゼン、データの交流等） ・対話を通して考えを深める（スライド、フィグジャム、共同編集・作成等） ○各教員の実践の共有、交流促進（共有フォルダの活用、支援員の活用等）